

議会受付番号	鎌議第 1160 号
質問者	上島 寛弘議員
答弁する者	教育長(教育部教育指導課)

文書質問に対する答弁書

鎌倉市議会基本条例第7条第3項(鎌倉市議会会議規則第105条)の規定による文書質問について、次のとおり答弁いたします。

1 件名

鎌倉市立中学校の職業体験について

2 質問の要旨

鎌倉市立中学校の生徒が職業体験を行う際、体験先はどのようにして決まるのか。現在の受け入れ先はどこか。市外もあるか。

子供達がこんな職業体験をしてみたいという希望の声がありながら実現していないものはあるか。

そもそも職業体験はどのような意味、効果があるか。

現在の鎌倉市立中学校の生徒の卒業後の進路の内訳は何か(普通科、工業科、商業科、就職など)。

市長部局として職業体験充実の為に協力出来ないか。(受け入れ先の充実等)

3 答弁

職業体験の体験先は、生徒の希望を尊重し、受け入れ人数の関係を考慮して調整しています。

現在の職場の受け入れ先は、基本的に地域の方々にご協力いただいております。藤沢市、逗子市、横浜市など鎌倉市以外の近隣市にもお願いすることもあります。主な体験先は、幼稚園(保育園)、郵便局、図書館、消防署、放送・出版関係、飲食店関係、小売店、製造業、漁業・農業関係、病院などがあります。

体験先の受け入れ人数の関係で、第一希望の職種を体験できない生徒もいますが、その場合は、第二希望、第三希望で調整しています。

職業体験は、生徒が働く人と接することにより、また、実際的な知識や技術・技能に触れることを通して、働くことの意義を理解し、生きることの尊さを実感する学習です。また、生徒が主体的に進路を選択決定する態度や意欲などを培うことのできる教育活動として、重要な意味を持っています。

職業体験をした生徒には、「進路や生き方に対する関心が高まった。」「職業や仕

事、働くことへの関心が高まった。」「あいさつや社会的マナーが身についた。」などの変化が見られ、効果として挙げられます。

また、平成 26 年度における中学生の進路先は、

1 普通科	87.6%
2 専門学科（専修、高等専門学校を含む） 工業、商業、農業、水産、国際関係など	6.3%
3 総合学科(*)	3.6%
4 就職	0.1%
5 その他（特別支援学校、家事手伝い、留学準備など）	2.4%

となっております。

(*)総合学科とは

共通教科の科目から専門科目まで、幅広い分野にわたって特色ある科目(例えば、生活科学、人間科学、生活福祉、環境科学、ビジネス、人文国際など)が設置され、その中から自分で科目選択して学習計画を立てて学ぶ学科です。原則として、全員が入学した年度に「産業社会と人間」という科目で自分の個性や適性を発見し、将来の進路や生き方、学習の仕方などを学んでいます。

なお、職場の受け入れ先については、市長部局にもご協力をいただいているところです。